



### 立皇嗣の礼

今月十九日。今上陛下の弟宮であられる、秋篠宮文仁親王殿下が、皇嗣殿下として、次期皇位継承者である事を内外に宣明する、立皇嗣の礼が挙行されます。

天皇陛下の弟宮が次期皇位継承者となる場合、歴史的には「皇太子」という称号が用いられてきましたが、明治時代に定められた皇室典範などに皇太子という規定が無く、現行憲法との整合性との関係から、この立皇嗣や皇嗣殿下という名称は、今回の為に作られ初めて用いられる語となります。

史料上確実な、弟宮が次期皇位継承者に選定されたのは、応安元年(一三六八)前後に、南朝の長慶天皇の弟宮である熙成親王(後の後龜山天皇)が、皇太子として立てられて以来の事で、実に六五二年ぶりとなります。

また実子以外の皇族が次期皇位継承者となるのも、安永八年(一七七九)に、後桃園天皇の養子として、師仁親王(後の光格天皇)が儲君(立太子礼を経ない皇位継承者)に立てられて以来の事で、こちらも二〇〇年ぶりです。この立皇嗣の礼は、立太子礼に準じて行われるとの事で、天皇陛下から壺切御剣という皇嗣の象徴である御剣が天皇陛下から親授されます。その剣を承けた事で、はじめて名実ともに皇嗣殿下とされます。

また当日、天皇陛下は黄櫨染御袍、皇嗣殿下は黄丹袍という、天皇、皇嗣にしか許されない禁色と呼ばれる特別な色の御装束を召されます。私達がこの二色の袍が揃うのを見るのは、今後しばらく無く、こちらも貴重な機会です。

当宮御本社の主祭神であります、嵯峨天皇さまも、兄宮であられる平城天皇の御代に、皇太子になられ、後に平安の世を築かれました。令和からまたその更に先に至るまでも、平安の御代の如く、皇室と日本国民の弥栄を祈念するばかりです。

### コロナ禍での祭祀等について

報道等でもご承知の通り、新型コロナウイルスの問題がいよいよ深刻となって参っております。上記の立皇嗣の礼においても、宮中饗宴の儀がとりやめになるなど、大変なる事態です。この状況を鑑み、当宮におきましても、これから暫くは疫病対策として、

- ・ 大人数での団体参拝の自粛
  - ・ 団体祈祷の参列者制限
- をお願いして参りますとともに、

- ・ 六月四日の歯神社例祭
- ・ 六月三十日の夏越大祓(御旅社)
- ・ 七月六日〜七日の七夕祭(御旅社)

も、五月の連休明けの段階で、感染拡大の懸念が払拭出来ない場合は神事のみとし、一般参列は自粛をお願いして参る可能性もございます。何卒ご理解ご協力の程、お願い申し上げます。

### 今月の暦

【祭祀】 神武祭(三日)：神武天皇崩御の日 神事のみ  
明祭(廿日)：道真公の冤罪が晴れた日 神事のみ

【節気】 清明(四日)：気候明るく清々しい頃  
穀雨(十九日)：田畑の準備が整い春雨降る頃

【雑節】 春の土用(四月十六日〜五月四日) 土掘りは遠慮

【大安】 四月一日、七日、十三日、十九日、廿四日、三十日

【祝日】 昭和の日(廿九日)、

【旬】 「野菜」 タケノコ、そら豆、山菜類、アスパラガス、甘藍  
「果物」 イチゴ、甘夏、ピワ(ハウス栽培)

「魚介類」 鯛(桜鯛)、サヨリ、シラス、ハマグリ(地蛤)、赤貝  
「その他」 桜の花、牡丹、百合、花水木、桐の花

### 雑感

百年に一度の疫病蔓延で、世界中で大変な事態です。人類にとつて一番の驚異が感染症である事を心底実感させられている方も多いのではないかと思います。平安時代、目に見えないウイルスゆえ、疫病の蔓延をタタリと捉えた人々の恐怖感は何ばかりであった事だろうと思います。今後は感染する事を前提に、自分自身が感染した時の事を想定した対策が必要になって参ります。どうか皆様も引き続きできる範囲での予防にお努め下さいませ。

### 網敷天神社 SNS、地図サイト



編著 網敷天神社 補宜(御旅社 神主)

白江 秀 知

